



LAYANG LAYANG

10-11月の出来事

「国際防災の日」にジョホール州で防災について考える

10月13日、マレーシア政府の「国際防災の日」のイベントがジョホール州政府主催で開催され、ジョホール州首相、国家災害管理局（NaDMA）長官、マレーシア工科大学学長や地域住民の約300名が参加しました。

本イベントでは、MJIT専門家が「コミュニティ防災：日本からの教訓」というタイトルで、本年発生した台風19号の状況や、日本の防災対策の基本概念である「公助・共助・自助」のコンセプト、自治体を実施する避難訓練やタウンウォッチングの実施方法、コミュニティレベルでのリスク評価の手法などを紹介し、日頃の備えや予防の大切さを伝えました。



Sahrudinジョホール州首相（UTMブース）

円借款附帯プロジェクト「マレーシア日本国際工科院強化プロジェクト」

期間：2018年7月～2023年7月 馬側機関：マレーシア日本国際工科院（MJIT）／マレーシア工科大学（UTM）

人的資源大臣が高専を訪問、協力に意欲

8月19日、マレーシア人的資源省のクラセガラン大臣とモハッドカイルラズマン事務次官はケネディージャワン駐日大使同行の下、八王子にある東京工業高等専門学校（通称:東京高専）を訪問しました。

（独）国立高等専門学校機構の谷口理事長、東京高専の新保校長も、日本の外務省・JICAと共に、この訪問団を歓迎しました。訪日中、クラセガラン大臣は将来の労働需要に合う人的資源の開発に向けて、マレーシアにおける人的資源省傘下の高等技術訓練機関と高専の間での連携へ期待を示しました。また、マレーシアのマハティール首相の唱道する東方政策の再活性化に向け、日本とは一層協力的で相互に貴重なパートナーシップを築いていきたいと繰り返し強調しました。日本とマレーシアの両国は連携内容の確定に向けて、前向きに検討することとなりました。



学生によるロボットのデモ



2つの大洋の安全を守る、国際上級制圧・立入検査コース

9月23日～10月4日、海上保安庁とマレーシア海上法令執行庁（MMEA）は、実施中のJICAプロジェクトの一環として、アジア・アフリカの海上保安機関の現場指揮官クラスを対象とした「国際上級制圧・立入検査コース」をMMEAの訓練所（AMSAS）にて実施しました。

MMEAや海上保安庁の船舶立入検査手法の紹介、制圧訓練、MMEAの巡視船を使ったシミュレーション訓練を実施し、各国の参加者は自国の規制も認識しつつ、自国の状況に適した方法で海上犯罪取締り方法についての改善案を検討しました。プロジェクトでは、AMSASが恒常的に海上保安のための国際研修を実施できるような体制作りをすすめます。次回は2020年2月、アジア諸国向けに鑑識国際研修を予定しています。



技術協力プロジェクト「マレーシア海上法令執行庁教育訓練能力向上及び地域連携強化プロジェクト」

協力期間：2018年5月～2021年5月

協力機関：マレーシア海上法令執行庁（MMEA）

パーム油産業で生じる廃棄物の調査報告

「パーム油産業で生じる廃棄物への高付加価値化合物製造バイオプロセスの適用に関する基礎調査」を実施しているGreen Earth Institute (GEI) より進捗報告が行われました。本調査は、マレーシア政府の「バイオマス国家戦略2020」を後押しすべく、パーム廃棄物からの高付加価値品の生産の創出を目指しています。

一般的には、パームヤシ廃木の管理はずさんと思われていましたが、調査を通じ、大規模農園では、ガイドラインに基づき、管理、処理が適切になされていることが分かりました。

一方で、パームオイル価格低下を受け、適切な管理を継続するためにはこれまで廃棄していた部位を利用する等の農園の多角化経営を望んでいることがわかってきました。本調査は2020年7月まで実施される予定です。

中小企業・SDGsビジネス支援事業

「パーム油産業で生じる廃棄物への高付加価値化合物製造バイオプロセスの適用に関する基礎調査」

期間：2019年6月～2020年7月、日本側実施機関：Green Earth Institute株式会社



OPTと呼ばれるパームヤシ廃木（これをチップにして埋設処理する）



OPTの埋設用トレンチ

マレーシア教育省、KL日本人学校を訪問

10月31日、マレーシア教育省の代表9名がクアラルンプール日本人学校を訪問しました。この訪問で、日本の幼稚園や小学校の特別活動（特活）の特徴である話し合い活動に焦点を当てた日本の学校教育システムを視察しました。特活は日本の教育課程で重要な位置を占めます。学級会などの様々な活動を通じて、社会的、精神的、身体的、教育的観点から、心身のバランスの取れた子供の全人的な発達を進めるものです。マレーシア教育省はこの特活の要素をマレーシアのプレスクールや小学校に適用することを計画しています。これは日本式の礼儀や規律、価値観を幼少時代から学ぶことで、ルックイースト政策を強化させたいマハティール首相の意向に沿ったものです。



学級会の様子



教育省代表と日本人学校の先生方

トピックス

サバ州にある古道、ソルトトレイル（塩の道）

私の配属先サバ州にあるクロッカー山脈公園には、ソルトトレイルと呼ばれる全長35.8kmの尾根伝いの古道があります。昔、山奥に住む民族が塩を求めて海の民族と交易するために使われていました。公道ができ、車での行き来ができる今もまだ、山奥の村々には昔ながらの生活が残っています。その土地の特徴を活かした「ソルトトレイルチャレンジ」というランニングイベントが今年も開催され、サバ州公園局の職員と共に運営を手伝いました。参加者は塩の小瓶をもって山道や村々のチェックポイントを走り抜けます。歩くのも困難な山道なので給水ポイントへの水の配布も一苦労でした。主催者は「Mercy」というマレーシアで活動する慈善団体です。ランナーの参加費は村々への寄付となります。

(JICA海外協力隊 小林杏澄)



ジャイアンツアカデミーコーチとJICA海外協力隊 マレーシアで野球クリニックを開催

株式会社読売巨人軍とJICAは、2015年に野球普及・振興のためのJICAボランティア事業（JICA海外協力隊）に関する業務協力協定（MOU）を締結し、毎年、野球指導の分野で派遣されているJICA海外協力隊の任地で、野球の普及活動を目的とした野球クリニックを開催しています。

その一環として2019年11月16日から5日間に渡り『ジャイアンツアカデミー』の指導者・成瀬功亮氏がマレーシア国立プトラ大学（Universiti Putra Malaysia: UPM）において、マレーシアU-12の選抜代表選手をはじめ小学生や大学野球部を対象にした野球クリニックを開催しました。

マレーシアに野球指導分野で派遣されたJICA海外協力隊員は上戸翔太隊員が第一号であり、本MOUに基づいた野球クリニックのマレーシア開催も初めてです。

成瀬氏は上戸隊員と共に、野球初心者・経験者問わず野球を心から楽しみつつ技術力の向上も図ることができるよう、ボールの握り方や投げ方の紹介、ゲームの要素を取り入れた捕球練習などを実施しました。また、野球経験がある選手には、走者への牽制やファーストへのカバーリングのコツなど発展的・実践的なアドバイスも実施しました。

成瀬氏は参加者に対し、常に100%の力で練習に取り組むこと、80%の力で取り組むとそれが無意識に自分自身の100%になってしまうこと、100%の力で取り組むためには体力が必要であり反復練習が重要であることを説明しました。参加者は真剣な眼差しで一言一言の重みを噛み締め、ひたむきに練習に取り組みました。

5日間における野球クリニックに延べ約250名が参加しました。参加者全体を見ながらも1人ひとりの表情を捉え親身にアドバイスを行う成瀬氏の野球に対する姿勢、人としての在り方・生き方に対する姿勢に、参加者も同席したスタッフも心を打たれました。今般の野球クリニックは、今後のマレーシアにおける野球競技の普及と振興に向けた貴重な一歩になると確信しています。



カバーリングについてのアドバイスを行う成瀬氏



一人ひとりに寄り添いながらアドバイスを
行う成瀬氏



成瀬氏と上戸隊員の勝負に、
参加者は大盛り上がりでした



ボールの握り方や感覚を
覚える練習



キャッチボールの光景

JICA海外協力隊（JOCV）配属先：マレーシアプトラ大学（UPM）スポーツセンター

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → ms_oso_rep@jica.go.jp

JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : ms_oso_rep@jica.go.jp